



■	説教	限りない愛と赦しの中で	植田 恵	1
■	教会の課題	主の委託に応じて	後藤 憲正	2
		-信仰と制度の委員会のこれまでとこれから-		
■	新約聖書学への招待	ルカ2章49節の新しい訳 第7回	住谷 眞	3
目次		旧日本基督教会の草創期-植村正久を中心に(7)		
		植村正久と文学-世界を眺める窓①	崔 炳一	4
	教会、この地とともに②	習志野教会		
		50年、そして新しい一歩を	重光 碩	5
	6人の牧師による座談会⑤		編集部	6
	こいのにあ	共に歩むために② -協力と交わり-	兵庫地区	
		一団の教会として歩むために	藤田 浩喜	7
		神学校の現状について	藤井 和弘	7
	コロナ禍の中で③			8
		教会ニュース		8



限りない愛と赦しの中で

不届きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか

(マタイによる福音書18章32-33節)

う え だ めぐみ
植 田 恵

星野富弘さんの詩画集に『あなたの手のひら』という一冊があります。この詩画集の題名にもなっている「あなたの手のひら」という言葉は、カトレヤの花に寄せて記されている「立っていても倒れていても ここはあなたの手のひら」という詩から取られたものです。この言葉には不慮の事故(中学の体育教師としてクラブ活動-体操部-の指導で、宙返りの模範演技中、あやまって墜落するというあの不慮の事故)で首から下の自由をすべて失って以来、口に筆をくわえて詩画を描き続けてこられた今までの歩みが、神様に豊かに守られたものであった、という思いがあふれているような気がします。

さて、マタイによる福音書18章21節を見ますと、ペトロはイエス・キリストに「兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか」と問いかけています。イエス・キリストはその問いに答えて「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」(22節)、つまり無限に赦すようにと教え、そして続けて一つのたとえ話を語っています。

1万タラントンの負債を負った家来が王の前でその返済を待って欲しいと懇願します。憐れに思った王はその家来の負債を赦してやりました。当時の労働者の一日の賃金がほぼ1デナリオンで、6千デナリオンが1タラントンですから、1万タラントンは返済することなど全く不可能な金額です。しかし、その莫大な負債を赦された家来は、仲間のところに行って、自分に負債ある者のわずかな借金を赦すどころか無理やり取り立てまし

た。王はその話を聞いて、この家来を1万タラントンの負債を返すまで獄に入れた、という物語です。

このたとえ話は、人間は、その命も含め、実に多くのものを神から与えられている(神に対して測り知れないほどの負債を負うものである)ということを私たちに教えています。マタイによる福音書6章9~13節に「主の祈り」が記されていますが、そこで「わたしたちの負い目を赦してください」と祈るのは、この莫大な神からの借りのことです。つまり人間は、おしなべて神から無限の借りを負った存在だということであり、それは言い換えれば人間の被造性の自覚の問題でもあります。そして、それはまた、人間はその借りを赦されて初めて生きていける程の「負債ある者」だということでもあります。そのような限りない神の愛の中で私たちは赦されて生きている(生かされている)のです。

私たちが神の前に正しい者とされるのは、私たちが神の御意を正確に理解し、そしてそれにふさわしく生きているからではありません。私たちは、弱さと破れに満ちた者です。しかし、にもかかわらず、その私たちが無限の愛と赦しの中に生かされているのです。「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」と教えられ、多くの人々の救いのために十字架への道を歩まれた方を見上げつつ、私たちに命を与えられた方が、それを限りない愛と赦しの中で、豊かに養い育てくださることを信じて、これからの日々を歩みたいと思います。

(高松伝道所牧師)